

「生命尊重こそが政治の基本でなければならない。」

住民の生命を守るために私のいのちを賭けよう 岩手県沢内村深沢晟雄村長



6月6日(日)上映「いのちの山河…」をみんなで観る会の会員になっていただけませんか

3月14日(日)14:00 第1回みんなで観る会(無料試写会あり) ぜひご参加を!

会場 諏訪共立病院3階ダイケア室

駐車は、春宮通り挟んだ第3駐車場に

“豪雪・多病・貧困”とてつもなく大きな問題を抱えた沢内村が、

1960年 日本で初めて乳児・60才老人医療費無料化を成し遂げた

そこには、「生存権・生命尊重こそ政治の基本」を謳って県・国とも闘う深沢村長と、

彼を支え闘い献身する多くの村民があった

私たちのいのちがあまりにも粗末にされる今こそ、みんなでこの映画を観て、

みんなの力で、憲法25条＝生存権を実現し、暖かくて平和の基盤を築く社会を!



劇映画「いのちの山河～日本の青空～」ご紹介

■ あらすじ

“豪雪・多病・貧困”とてつもなく大きな問題を抱えていた、山間の小さな村・沢内村。長く無医村であったこの地で、父親から医者になることを期待されながらも村を離れていた深澤晟雄は妻と帰郷し、昔と変わらず悲惨な村の状況を前に晟雄は、何とか村をよくしたいと立ち上がった。

自分達を苦しめている問題を打破しようと村民に語りかけ、自らの信念である『生命尊重』行政の在り方を説き、いよいよ村民の医療無料化に踏み切ろうと決意するが、国民健康保険法違反という壁に突き当たってしまう。

晟雄は、村民のいのちのため、全国に先駆けて何としてでも実現させようと「少なくとも憲法違反にはならない。国がやらないから、村がやるんです！」と憲法 25 条を盾に、老人・乳児医療無料化を推し進めていく。やがて、全国でも最悪の乳児死亡率だった村が、全国初の乳児死亡“ゼロ”という記録を生みだすまでになる。

しかし、そこに辿りつくまでには、晟雄と村民たちの奮闘の日々と、数々のドラマがあった・・・。



■ 湯浅 誠 / 反貧困ネットワーク事務局長

貧困と格差が広がる中、自衛隊が就職先としての「魅力」を増しています。今日明日の暮らしが成り立たないホームレス状態にある人たちやネットカフェ難民、それに「派遣切り」の被害者たちは、一番政治に変わって欲しいと願っている人たちなのに、そのことを十分に考える時間的・精神的ゆとりを持ちにくい状態に追い込まれています。住居を追われ、選挙権を行使できない人たちさえいる。

貧困が広がれば、政治はますます一握りの人たちだけの舞台になっていきます。こうやって憲法 25 条の生存権が掘り崩されていく社会は、同時に 9 条をも危うくしていきます。誰もが人間らしく生きられる社会は、生存権が保障されているだけでなく、戦争に対する抵抗力も強い社会です。そうした社会の実現のため、“映画の力”にぜひとも期待したいです。

いのちに格差があってはならない！